

学びを実感し、考えを深める子ども

－比較から関連付けを促す授業の実践－

新潟市立亀田小学校

1 NIE 実践のねらい

(1) 研究主題設定の意図

今日の社会は「知識基盤社会」あるいは「コミュニティ基盤社会」などと形容される。そのような中では、新しい知識や技術、アイデアが他の何よりも重視される。つまり、決まった答えのない課題に対して、一人ひとりが自分の考えや知識を持ち寄り、コミュニティの中で考えを深め、答えを見出すことが求められているのである¹。

このような社会の状況を背景としたとき、これからの授業実践において求められることは何か。それは、子どもの主体的な学びを促すとともに、子どもが他の内容や場面にも応用可能な形での学びを自覚することだと考えた。自分が何を、どのように学んだのかということを実感しながら、考えを深める子どもを育てることが喫緊の課題と捉えたのである。

(2) 目指す子どもの姿

知っていることと知らないこと、自分の経験と他者の経験、理想と現実。すべての学びは、違いや同じをはっきりさせることから始まる。そして、それを自分なりに意味付けることで新たな知識となる。つまり、子どもの学びのきっかけとなるのは「比較」することであり、深い学びへと誘うのが比較によって明らかになった事実や視点を「関連付け」ることである。

比較

自分の考えと友達の影響、自分の経験と他者の経験などを照らし合わせることを通して、共通点や相違点を見出し、新しい見方や考え方を身に付ける糸口とする。

関連付け

比較の活動を通して明らかになった事実や視点を、既習事項や自分の知識・経験と結び付けて考えることを通して、新たな意味付けや価値付けを行う。

¹ 勝野頼彦・他(2013).「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」, 国立教育政策研究所.

このように、本研究で目指すのは「比較」と「関連付け」によって考えを深める子どもである。また、そのような力を子どもに育むことである。そのためには、様々な視点や立場で語られた情報を与えること、文字情報を補う写真や図を提示すること、子どもが知らない新たな事実を提示することといった働き掛けが必要である。その重要な役割を新聞に求めることにした。

(3) 研究の内容

次の3点を本研究の内容とする。

【研究の内容(1)】

共通点や相違点に気付かせる有効な比較のさせ方を明らかにする。

【研究の内容(2)】

比較することによって生まれた事実や視点を関連付けて考えさせる有効な働き掛けのあり方を明らかにする。

【研究の内容(3)】

上記2つの研究内容にかかわって、新聞を活用することの有効性を明らかにする。

2 本年度実践の概要

(1) 学習活動

「学びを実感し、考えを深める子ども」を目指すために、次の3点を重視した授業づくりを行う。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①学習課題に対する問題意識を高める課題提示を行う②子どもの主体性や協働的な学習を促す働き掛けを行う。③上記2つにかかわって、「比較」や「関連付け」を視点とした働き掛けを行う。 |
|---|

(2) 日常活動

家庭学習やNIEタイム(朝学習)において、新聞に親しむ活動や新聞を用いて表現する活動を継続的に行う。

(3) 環境整備活動

委員会活動による新聞掲示板の取組や、図書館の新聞閲覧コーナーの設置によって、子どもが新聞を読んだり、利用したりすることができる環境を整える。

3 実践例

(1) 学習活動

授業実践 1

第1学年 国語科 「いろいろなふね」

授業者 田中 穂波

① ねらい

役目（仕事）、つくり、できることについて、レストランバスと既習の客船の記述を比べる活動を通して、手掛かりとなる言葉を見付けることができる。

② 指導の構想

ア 学習課題に対する問題意識を高めるための手だて

教科書では役目（仕事）、つくり、できることを視点として、客船や漁船など、様々な船について学習してきた。これまでの学習を通して子どもは、船だけでなく他の乗り物についても調べたいという意欲をもっている。

そこで、レストランバスに関する新聞記事（「日本初登場！『レストランバス』に乗ってみた」2016.3.16 東洋経済新聞）を提示する。子どもは、レストランバスという初めて聞く乗り物に関心を高めるだろう。そのような子どもに、教科書とは違う文型でも乗り物の役目、つくり、できることを読み取ることができるのか投げ掛け、そのための方法について考えさせる。

イ 主体的・協働的な学習を促す手だて

レストランバスの新聞記事を写真→見出し→記事の順に提示する。写真を見た子どもは、内観の様子が通常のバスと様相が違うことに気付く。写真だけでは分からないことを明確にするために、子どもは「記事を読めば分かるかもしれない。」と、その答えを記事に求めるようにするだろう。

そして、記事を読み取った子どもに、既習である客船とレストランバスの役目、つくり、できることを比較させる。そうすることで、「～のために」「～がある」「～ができる」といった言葉と内容を関連付けて考えることができ、本や図鑑を読むときにも応用可能な読む力の育成が図られると考える。

③ 授業の実際

新聞を提示すると、子どもは記事に赤線や青線を引きながら内容を読み取ろうとしていた。読み仮名や意味を補えば、1年生の子どもであっても十分に記事を読めることが明らかになった。

また、記事はこれまで子どもが読む視点としてきた役目、つくり、できることに沿って記述されているわけではないが、子どもは既習である客船と比較することで、「～がある」「～ができる」といった言葉に着目し、既習の言葉と視点とを関連付けながら内容を理解していた。教科書とは違う形式の新聞の文章を用いることで、子どもの読みの幅を広げることができたといえる。

① ねらい

亀田地区で約 320 年の歴史を誇る三・九の市について取り上げた新聞記事について、追加する資料を比較する活動を通して、新聞記事の内容や読み手の思いを考えながら資料を選ぶことの大切さを理解できる。

② 指導の構想

ア 学習課題に対する問題意識を高めるための手だて

単元の最後に三・九の市に関する自作の新聞をつくることがこの学習の最終的な目標である。

本時は、三・九の市について取り上げた実際の新聞記事（「『三・九の市』魅力アップ」2016.10.19.新潟日報）を提示し、三・九の市のよさが分かる部分を読み取らせる。続いて、以前ゲストティーチャーとしてお世話になった江南区役所の笹谷さんがもつこの記事に対する満足度を予想させる。記事の内容に満足しているだろうと考える子どもの予想に反し、笹谷さんの満足度は低い。そのズレを生むことによって、「自分が新聞をつくる時、どんな資料を使えばよりよいものになるか」という学習課題を設定する。

イ 主体的・協働的な学習を促す手だて

学習課題を設定した後、記事に追加する資料として笹谷さんから推薦された「三・九の市の周辺地図」を提示する。なぜ地図があるとよいのかを考えさせることで、追加する資料は「記事の内容」と「読み手の思い」を考えればよいという視点を共有させる。

選択する視点が共有されたところで、資料の候補として「A:旬な鮮魚」「B:市の食材で作ったお鍋」「C:野菜を売るおばあさん」の写真を提示する。子どもは、それらの写真と記事の内容や読み手の思いを関連付けながら、よりよい記事にふさわしい資料を選択するとともに、相手の立場を考えて情報を発信することの大切さに気付いていくだろう。

③授業の実際

子どもは愛着のある三・九の市について、もっとよい記事にしたいという強い思いをもち、自分なりの理由を述べながら資料を選択していた。「こうすればよくなるのではないか」と記事を批判的に読ませることで、読み手の立場によって記事の受け取り方が変わってくるという気づきを生むことができた。

通常、自作の新聞をつくる際は自分が伝えたいことを第一に記述するものだが、実際の新聞記事の内容を検討させる活動を行うことによって、読み手を意識した新聞づくりにつなげられることを示すことができた。

① ねらい

自動車づくりについて、エコカーの開発・生産・普及を焦点にして、エコカー普及の問題点を新聞記事から調べたり、生産者と消費者の両者の立場から今後のエコカーづくりについて判断したりすることを通して、これからのエコカーづくりについて自分の意見をもつことができる。

② 指導の構想

ア 学習課題に対する問題意識を高めるための手だて

エコカーの普及にかかわる二つの新聞記事（「EV 電気自動車普及にアクセル」2016.7.25 新潟日報、「人気ミライ普及に壁」2015.12.17 朝日新聞）を提示し、「普及にアクセル」と「普及に壁」という二つの見出しを比較させる。これまでの学習でエコカーが徐々に普及していると認識している子どもとのズレを生み、「エコカーの普及には、どんな問題があるのだろうか」という補助課題を設定する。

その後、新聞記事（「広さと走りでトヨタに対抗」2016.3.11 日本経済新聞、「リーフ、航続距離を 2 割長く」2015.11.11 日本経済新聞、「『夢のエコカー』燃料電池車」2013.12.17 新潟日報ふむふむ）から、「排気ガス」「価格」「航続距離」「インフラ整備」など、普及の妨げとなるいくつかの問題点を読み取らせる。そして、これらの問題点を踏まえて、「自動車会社は、これからのエコカーづくりにどのように取り組んでいけばよいだろうか」という中心課題を設定する。

イ 主体的・協働的な学習を促す手だて

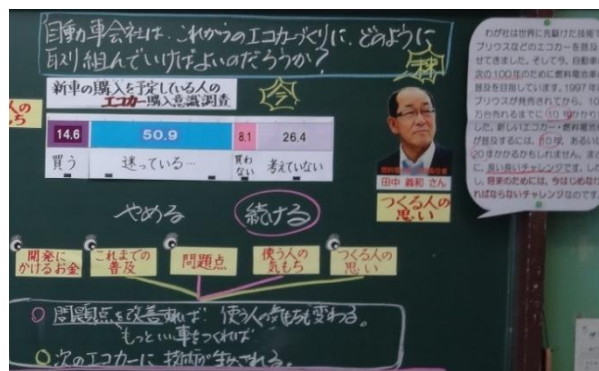
学習課題の設定後、消費者のエコカー購入に対する意識について調査したアンケート結果と、開発者のエコカー開発にかける思いが語られた取材コメントを提示する。前者からは、消費者の多くがエコカーの購入を迷っている現状が分かり、後者からは、開発者が多くの困難に直面しながらも新しい技術の開発に情熱を傾けていることを読み取ることができる。

この働き掛けによって、消費者と開発・生産者の両者の立場から、これからのエコカーづくりについて子どもに考えさせ、互いの意見を交流させる。

③授業の実際

エコカーの普及の問題点、消費者の意識、開発者の思いをとらえた子どもは、これからのエコカーづくりについて、開発・生産を「やめるべき」「続けるべき」という二つの立場で考えていた。エコカーの開発・生産を続けるべきだと考えた子どもは、授業後の振り返りで「エコカーの素晴らしい技術が新しい車の参考になるかもしれないし、今やめたらこれまでの努力がもったいない。

それに今のエコカーに乗っている人たちが、そのよさを広めてくれるかもしれない。だから、エコカーの開発は、今後も続けていくべきだと思う。」と記述した。この記述からは、開発者の努力、使う人の思いなど、いくつかの視点に関連付けることによって、自分の考えを確かにしていった学びの成長を読み取ることができる。



この学びを促したのが、複数の新聞記事の提示である。当然、同じエコカーを扱った記事でも立場や主張が異なる。一つの記事の読み取りでは一方通行の理解に終わるものが、複数の記事の読み取りによって多様な見方・考え方が生み出される。それらに関連付けることで、既述した子どもの感想のような深い学びへとつながっていくと考える。

(2) 日常活動

① 低学年の取組

新聞の読み聞かせ

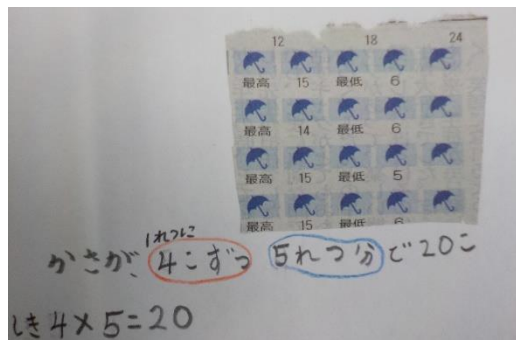
低学年の NIE タイムでは、毎週届く子ども新聞の中から、子どもが興味をもちそうな記事の読み聞かせに取り組んでいる。ようやく平仮名や片仮名を覚えただけの1年生でも、印刷した記事を指でなぞりながら、教師の読み聞かせに耳を傾けている。



また、読むより見た方が楽しく分かりやすい「おもちゃづくり」や双六などの紙面は、学級の掲示コーナーに貼っている。

かけ算探し

かけ算九九を学習している2年生では、新聞からかけ算の式で表せる写真や絵を探す活動を行った。一人ひとりが新聞からかけ算の式に表せるものを全体の場で紹介すると、友達の見付けた新聞を見ながら「 $\bigcirc \times \square$ になるね。」と話したり、「全部で何個になるね。」とうれしそうに答えたりする姿が見られた。



また、新聞から見付けた写真や絵は、言葉・式・答えを書き加えて掲示することで、たくさんの発見を共有することができた。また、家庭に帰ってからも新聞からかけ算を探してくるという意欲にもつながった。

② 中学年の取組

スクラップシート

新聞スクラップシートに自分の興味関心のある記事を選んで貼り、記事に対して思ったことや考えたことなどを文章にまとめる。スクラップシートは事前に配付し、家庭で取り組んだものを NIE タイムの時間に紹介できるようにしている。



活動の回数を重ねることで、子どもが選ぶ記事の内容に多様性が見られるようになってきている。

見出しを考える活動（ミダッシー）

本文や写真から見出しを考える活動（ミダッシー）を中学年でやっている。この活動を行う際に子どもに伝えていることは、以下の3つである。

- 見出しは短く（15文字程度）
- 伝えたいことが分かるように
- 記事を読みたくるように

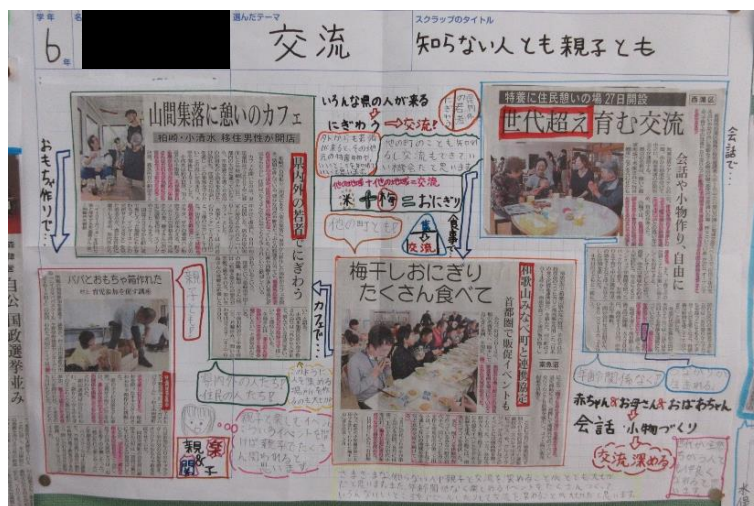
この活動を発展させて、その日にあった社会の出来事（例えば、「〇〇県でこんな事件があったよ。」）を伝えて、翌日の朝刊の見出しを考えさせることも可能である。

③ 高学年の取組

コンクールへの出品

高学年は「親子でチャレンジ!!小学生夏休み新聞スクラップコンテスト」に作品を応募した。事前にスクラップの作成の仕方やテーマ設定の仕方について指導してから、作品の作成に取り掛かった。

この活動は設定したテーマに合った記事を集める必要があるため、継続的に新聞を読むきっかけづくりになった。また、コンテストという目標があったことで、親子で意欲的に取り組むことができ、それ以降家庭内で新聞記事を話題とした会話が増えたという保護者からの声も届いている。



(3) 環境整備活動

① 新聞閲覧コーナー

子ども新聞「ふむふむ」の閲覧コーナーを教室に設け、子どもたちがいつでも新聞に親しめるように環境を整えている。朝のスピーチのネタを探したり、家庭で新聞を読み自主学習に取り組んだりする子どもが増えている。1年生でも、写真に興味を示したり、新聞を使った活動にスムーズに入れたり、新聞が生活の一部になってきている。

② 新聞掲示板

図書館の一角には、新聞を掲示するスペースを設けた。毎日学校に届く新聞から、広報委員会が記事を一つ選び掲示している。月曜日から金曜日までの担当を決め、政治、経済、スポーツ、地元の記事など、バランスを考えて記事を選んでいく。



子ども自身が見出しを考えることを積み重ねることで、記事の要点を捉えられるようになってきた。また、子どもの視点で記事を選ぶことによって、掲示板の前で足を止めるなど記事の内容に関心をもつ子どもも増えてきている。

4 おわりに

二年間の取組における成果と今後の展望を述べる。

学習活動においては、「比較」と「関連付け」をテーマにして実践を積み重ねてきた。比較については、写真と写真、文と文など、同じ形式にして比較させることで共通点や相違点に着目させやすいことが明らかになった。関連付けについては、比較によって明確になった共通点や相違点を子どもの知識や経験と結び付けるために視点を絞ったり、整理したりする働き掛けが必要であり、そのために思考ツールなどを活用することが有効であることが明らかになった。

また、授業における新聞活用の最大の効果は、すべての子どもが同じスタートラインに立って参加できるということである。新聞は読み手によって解釈が違い、授業ではそれが考えの多様性となって表出する。解釈の違いに正誤はなく、生き生きと自分の考えを発言する子どもの姿を多くの授業で散見できた。

今後は、これまでの取組をさらに充実させることで、社会の出来事に関心を向ける子どもを増やすとともに、その関心を社会とかかわる力へと高めていく教育活動のあり方についても考えていきたい。